

生涯学習推進計画策定の趣旨

北九州市では、市民の学習活動を総合的に支援するため、これまで以下のような計画を策定。

平成10年度	北九州市生涯学習推進構想
平成14年度～17年度	北九州市生涯学習推進計画
平成18年度～22年度	北九州市教育行政総合計画（いきいき学びプラン）
平成23年度～27年度	北九州市生涯学習推進計画
平成28年度～令和2年度	北九州市生涯学習推進計画＜“学びの環”推進プラン＞
令和3年度～7年度	北九州市生涯学習推進計画＜“学びと活動の環”推進プラン＞

「北九州市生涯学習推進計画＜“学びと活動の環”推進プラン＞」の策定から5年が経過することから、新たな生涯学習推進計画を策定するもの。

➤ 計画の位置づけ

「生涯学習推進計画」は、北九州市・新ビジョン（市の基本構想・基本計画）の部門計画の1つです。

加えて、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付け。

➤ 計画の対象

対象範囲は、主に「社会教育」「家庭教育」分野。

【社会的背景】

- VUCAの時代の到来
- 人生100年時代の到来
- 地域コミュニティの衰退、課題の多様化・顕在化

【進行する社会課題】

- 低い幸福度
22か国中最下位（2025年ハーバード大学調査）
- 孤独・孤立化の進展
・4～5割の人が孤独を感じる社会（人々のつながりに関する基礎調査）
・2040年、単身世帯は約40%に
- 既存コミュニティの弱体化
自治会・町内会の加入率の低下（北九州市では30年で約40%減）、PTAの弱体化

【「学び」のニーズ】

- いつでも、どこでも、気軽に学びたい
生涯を通じて学び続けられる環境を
- 変化の激しい社会に対応していきたい
キャリアアップ、スキルアップのための学びの機会を
- 豊かな人生を送りたい
学びや健康づくり、多様な人とつながる機会を

【目指すまちの未来（2040年）】

共に学び、共に育つ

「共育」が拓くまちの未来

【変革点】

生涯学習を身近に
「学び」と「活動」で幸せに
「知らない・誰か」のことを
「私たちごと」に

【次期計画のポイント】

- ①地域コミュニティビジョンと歩調を合わせた長期的な視点での策定
- ②企業、NPO、学生、社会教育士等の多様な力を生かした学びと活動の推進
- ③ICTを活用した生涯を通じて学び続けられる仕組みづくり

北九州市生涯学習ビジョン2025 （次期生涯学習推進計画）

<計画のコンセプト>

“学び”と“活動”による
関係作りを通じた
多様なコミュニティの醸成

「私たちごと」化を通じた
北九州市の未来を創る
人材の育成

<計画の基本方針>

【“学び”と“活動”】

自分らしく、生き生きと
暮らすことができる
“学び”と“活動”の機会の創出と推進

【地域づくり】

持続可能な地域づくりに
向けた地域力の育成

【人づくり】

未来の社会の創り手を
育て・支える人材の育成

令和8年度の
重点的な取組

- オンラインやオンデマンドを活用した学びやすい環境づくり
- 情報発信や学びの支援人材の育成を通じた支援体制の強化

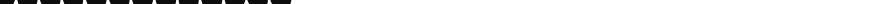
- 市民センターを支える若者ボランティア『コミュニティ・クルー』制度
- 市民センタークラブの講師等が次の地域人材を育成する『地域デビューサポーター事業』

- 大学との連携拡充による未来の作り手の育成
- フリースペースやWi-Fiの整備による生涯学習センターのサードプレイス化

北九州市生涯学習ビジョン2025(案)

2025年10月23日

一人ひとりの“学び”と“活動”が作る北九州市の未来

[illegible]

令和8年●月

北九州市長 武内 和久

計画策定の趣旨

北九州市では、市民の学習活動を総合的に支援するため、これまで以下のような計画を策定してきました。

平成10年度	北九州市生涯学習推進構想
平成14年度～17年度	北九州市生涯学習推進計画
平成18年度～22年度	北九州市教育行政総合計画（いきいき学びプラン）
平成23年度～27年度	北九州市生涯学習推進計画
平成28年度～令和2年度	北九州市生涯学習推進計画<“学びの環”推進プラン>
令和3年度～7年度	北九州市生涯学習推進計画<“学びと活動の環”推進プラン>

「北九州市生涯学習推進計画<“学びと活動の環”推進プラン>」の策定から5年が経過することから、新たな生涯学習推進計画を策定するものです。

➤ 計画の位置づけ

「生涯学習推進計画」は、北九州市・新ビジョン（市の基本構想・基本計画）の部門計画の1つです。
加えて、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けています。

➤ 計画の対象

対象範囲は、主に「社会教育」「家庭教育」分野です。

生涯学習とは

生涯学習とは、人々が生涯にわたって、あらゆる機会や場所で、自発的に学び続ける活動のことを意味します。

生涯学習の目的は、自己実現、社会参加、職業能力の向上、生活の質の向上など様々です。学習する場所も、家庭、学校、職場、市民センター、図書館、オンライン講座などと多様です。

生涯学習には、知識や技能、態度などを身につける学習行為である「学び」の側面だけでなく、それらを生かして行動したり、人とのかかわりを持つといった行動的な側面である「活動」が含まれます。

生涯学習の例としては、以下のようなものがあります。

- ◆本を読んだり、講座やセミナーに参加したり、オンライン動画を視聴する。
- ◆資格取得のための勉強をする。
- ◆健康づくりやスポーツ、レクリエーションに参加する。
- ◆音楽や手芸、園芸などの趣味を楽しみ、その成果を発表する。
- ◆ボランティア活動や地域の活動に参加する。

生涯学習における「学び」と「活動」のサイクル

生涯学習の「学び」と「活動」は、それぞれが独立している場合もあれば、一連のサイクルとしてつながっている場合も多くあります。

一連のサイクルでは、次のように進んでいきます。

- ①「学び」を通じて、新しい知識・技能・価値観を習得します。
- ②学んだことを地域・仕事・生活といった様々な場で「活動」として実践します。
- ③「活動」を通じて、うまくいかなかったことや新たな知識の必要性といった「気づき」が生まれます。
- ④「気づき」に基づき新たな「学び」へとつながり、新たな分野や視点で学習を深めます。
- ⑤新たな「学び」を生かした「活動」に取り組みます。
- ⑥新たな活動に基づく「気づき」が生まれ、次の「学び」へ繋がります。

「学び」と「活動」のサイクルを通じて、学習がより深まり、よりよい活動へと繋がります。

このサイクルを通じて、「学び」や「活動」は、一人ひとりの生活や地域コミュニティ、社会に活かされます。



次期計画の方向性

「北九州市生涯学習推進計画＜“学びと活動の環”推進プラン＞」期間中は、新型コロナによる市民生活への影響や生成AIの急速な普及等、生涯学習を取り巻く環境は予測困難な時代を迎えました。

このように予測困難な変化の激しい時代では、これまでの計画の個別の指標を設ける従来の計画では時代の変化への対応が困難です。

このような状況であるからこそ、次期推進計画では、羅針盤のように理念や大きな方向性を示す「北九州市生涯学習ビジョン2025」を以下の考え方に基づき策定します。

目指す未来へ向けた生涯学習行政の方向性を示す

「北九州市生涯学習ビジョン2025」を策定

- 2040年までのおおむね15年間（2026～2040年）を対象に、北九州市の未来へ向けた生涯学習行政の理念・方向性を示します。
- 理念・方向性を示した上で、本計画では15年間のうち最初の5年間の取り組みを中心に策定します。
- ビジョンは2040年までの15年間を対象としながらも、おおむね5年おきに見直しを図ります。

次期推進計画策定にあたって考慮すべき社会的背景

生涯学習・社会教育に関連する社会的背景

01

将来の予測が困難な VUCAの時代の到来

AI技術の進化や気候変動など、あらゆる物事が激しく変化し、複雑かつ曖昧な様子が続いて将来の予測が難しい時代を迎えています。

そのような社会では、一人ひとりが年齢を問わず、常に学びを通じて幅広い知識・技能と柔軟な思考力を更新しつづける必要があります。

02

人生100年時代における ウェルビーイングの実現

人生100年時代を迎え、長期的な視点でより良い人生を考えることが必要となる時代を迎えています。

長期的な視点でより良い人生を送るためには、心身の健康に加えて、社会的に良好な状態であることが欠かせません。そのためには、趣味やボランティア活動等を通じた人とのつながりづくりが重要となります。

03

様々な社会変化を背景とする 地域課題の顕在化、 課題の多様化・複雑化

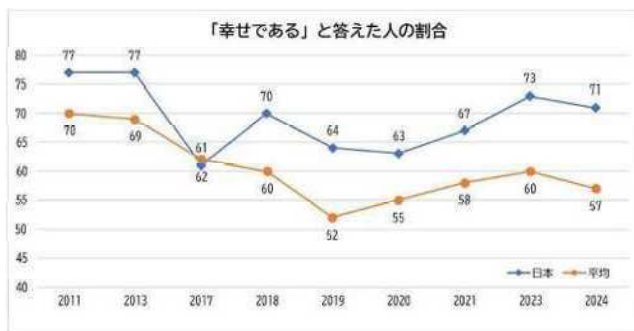
これまで地域社会を支えてきた地縁組織の弱体化により、地域コミュニティの希薄化が進行しています。

そのような中、多様化・複雑化する地域課題を解決、さらには課題を発生させない、課題を早期に発見できるような新たなつながりづくりが必要です。

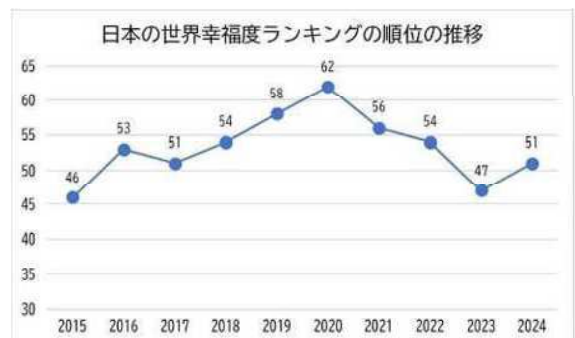
進行する社会課題

01 低い幸福度

- 5年間の持続的幸福感を測ることを目的とした「グローバル幸福度調査」において、22の国と地域中、日本は最下位に。（2025年4月）
- 2025年版の世界幸福度レポートにおいて、147カ国・地域中、日本は55位。G7の中で最下位。



2024年イプソスグローバル幸福度レポート

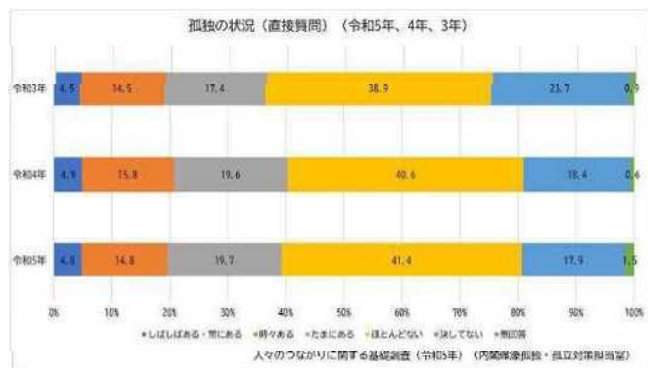


世界幸福度ランキング

進行する社会課題

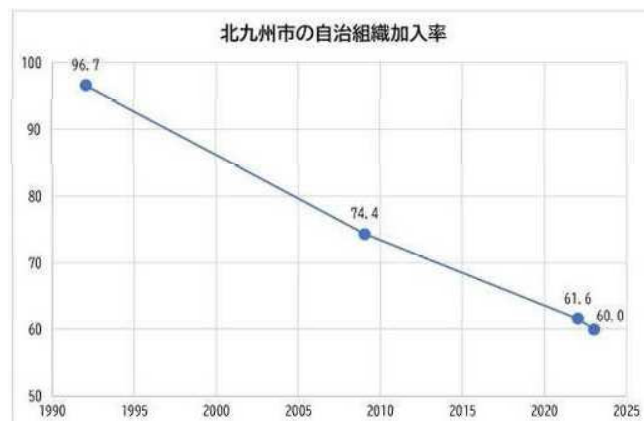
02 孤独・孤立化の進展

- 「人々のつながりに関する基礎調査」では、令和3年度の調査開始以来、孤独を感じている人の割合は4～5割程度。
- 2040年には単身世帯が43%、うち高齢者単身世帯が19%に。（国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6年推計）」）



03 既存コミュニティの弱体化

- 従来の自治会やPTAといった既存コミュニティの加入率の低下、組織数の減少。
(北九州市の自治会加入率は30年間で約40%の減少)



「学び」のニーズ

◆いつでも、どこでも、気軽に学びたい

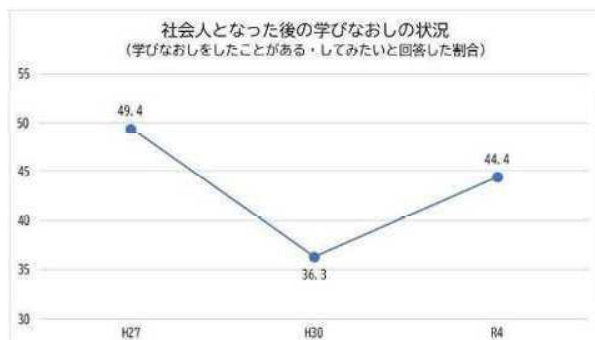
人生100年時代、多様なライフスタイルにも対応した、生涯を通じて学び続けられる環境が求められています。

◆変化の激しい社会に対応していきたい

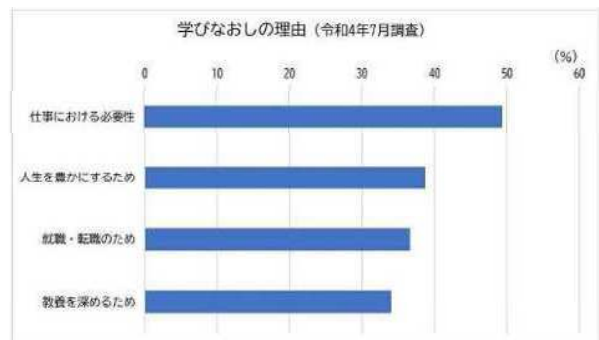
不安定な社会情勢や急速な技術革新など、将来の予測が困難な時代を迎え、生活においても、ビジネスにおいても学び続ける。

◆豊かな人生を送りたい

人生100年時代を豊かに過ごすために、生涯学習を通じた学びや健康づくり、多様な人とのつながりが重要に。



内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」を基に作成

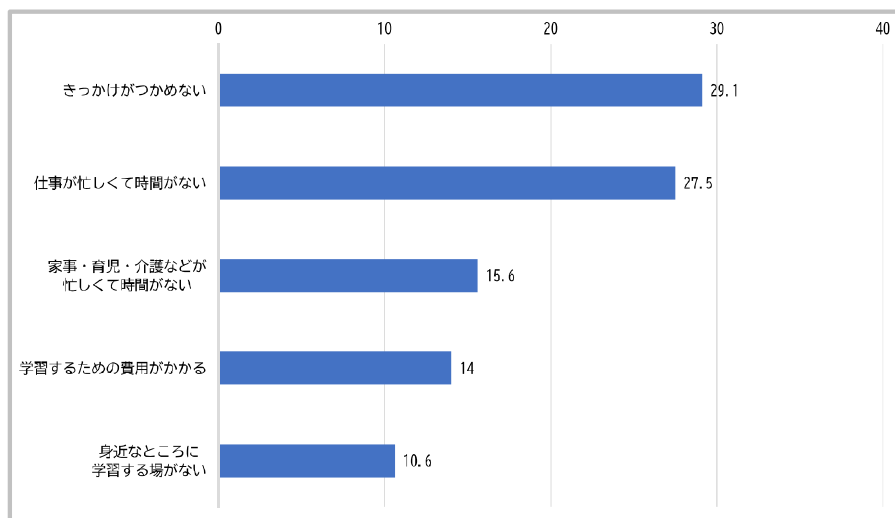


内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」(令和4年7月調査)を基に作成

「学び」の現状

◆学習していない理由（複数回答・上位項目抜粋）

学習をしていない理由として、きっかけや時間がないという理由も多くなっている。

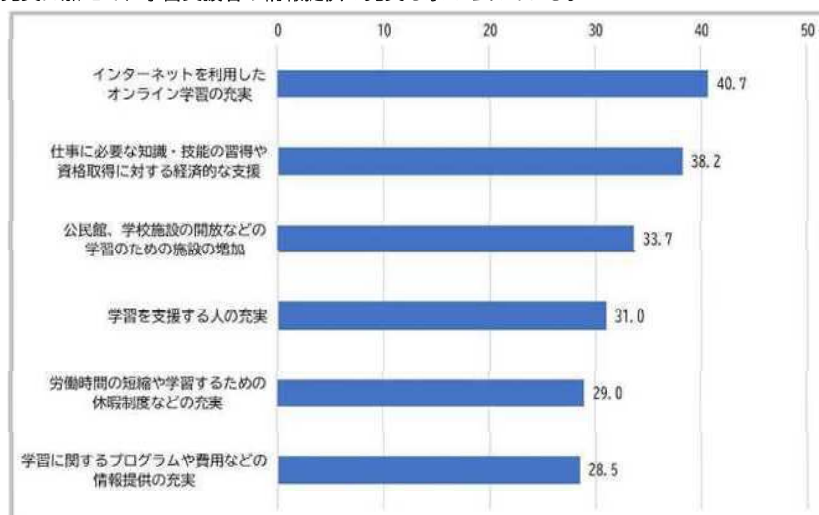


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(https://survey.gov-online.go.jp/r04_r04-gakushu/2.html#midashi7)

「学び」の現状

◆生涯学習を盛んにしていくために国や地方自治体が入力すべきこと（複数回答・上位項目抜粋）

学習機会や内容の充実に加えて、学習支援者や情報提供の充実も求められている。

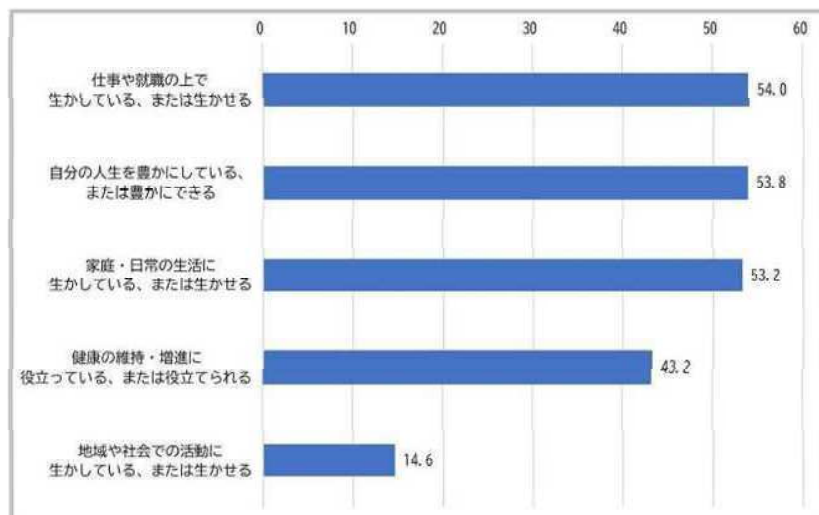


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakusyu/2.html#idashi7>)

「学び」の現状

◆学習成果の活用状況（複数回答・上位項目抜粋）

仕事上の活用に加えて、人生を豊かに・健康増進に役立てられているものの、地域や社会での活用の限定的。

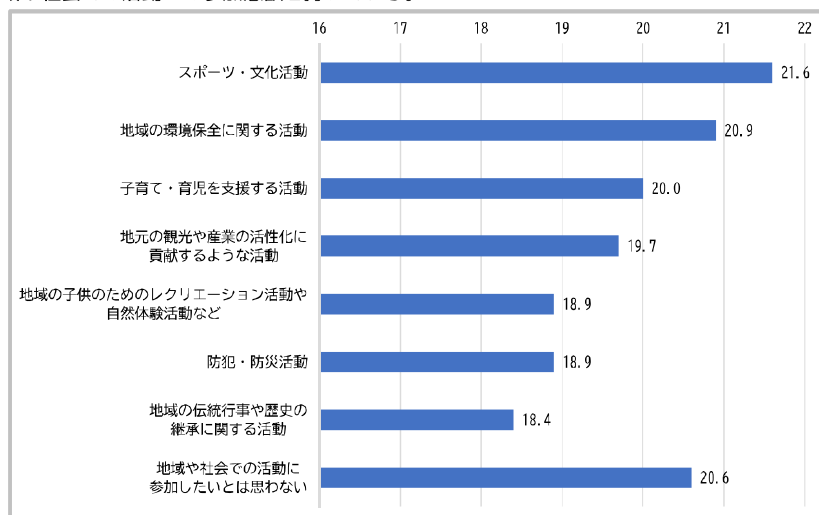


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakusyu/2.html#idashi7>)

「学び」の現状

◆地域や社会での活動への参加意欲（複数回答・上位項目抜粋）

一定数の割合が地域や社会での活動への参加意欲を持っている。

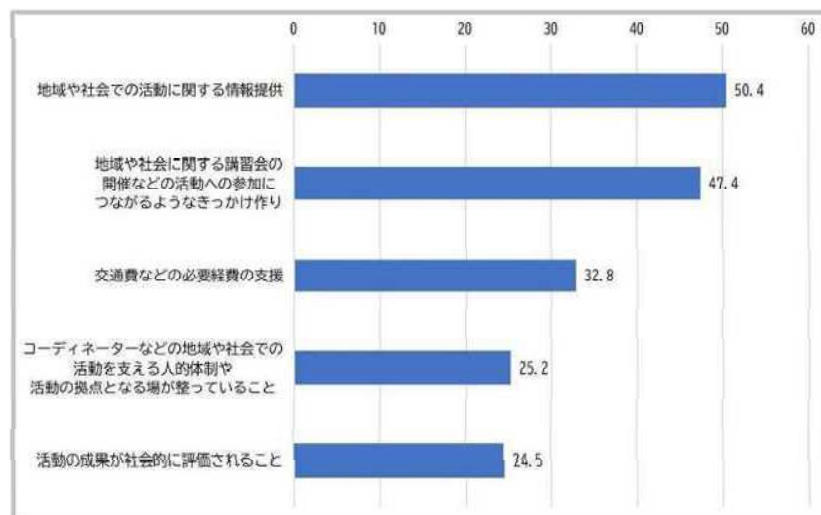


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(https://survey.gov-online.go.jp/r04_r04-gakushu/2.html#midashi7)

「学び」の現状

◆多くの人が地域や社会での活動に参加するために必要なこと（複数回答・上位項目抜粋）

活動に関する情報提供に加えて、講習会等の学びを通じたきっかけ作りが求められている。



出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakusyu/2.html#idashi7>)